

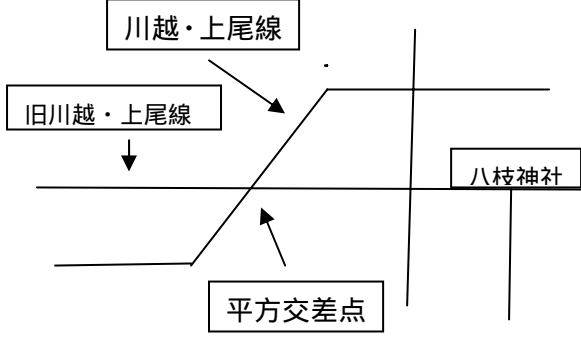
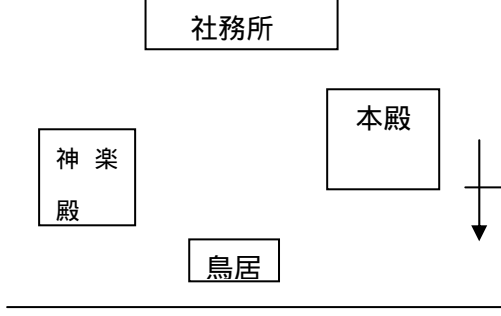

4 - 3 . 本庄・熊谷・北本

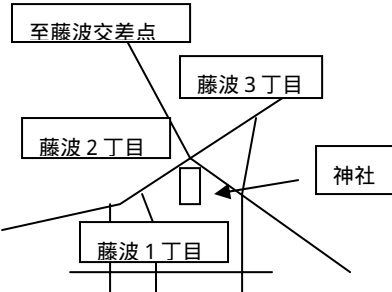
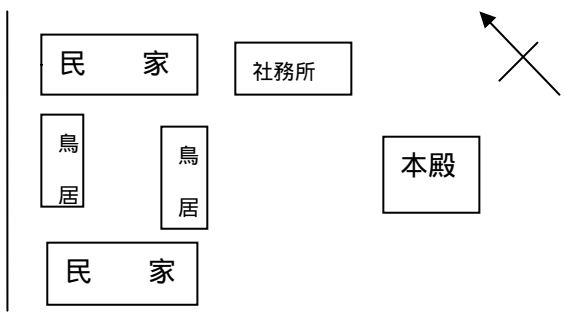

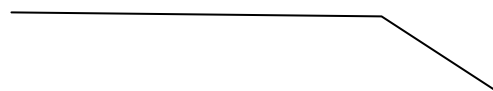
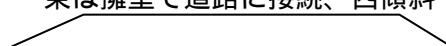
第3班の調査範囲は、本庄・熊谷・北本県土整備事務所管内で、調査の実施体制は表4 - 3 に示すとおりである。

表4 - 3 第3班の調査範囲と実施体制

調査班	調査範囲	区域内主要市町村	調査者
第3班	本庄・熊谷・北本県土整備事務所管内	本庄市、上里町、熊谷市、上尾市、鴻巣市、伊奈町ほか	武井靖吉、尾崎邦夫、前田猛彦、横倉輝夫、秋池 實、保泉誠次、佐藤英一、秋山輝夫

: 調査班長

鎮守の森 調査票				調査日	2008/ 9/12、11/6	調査者	武井
社寺名称	八枝神社		通称	天王様			
所在地	上尾市平方488			管理者			
祭神、本尊	素盞鳴尊						
祭礼、縁日	3/3・4 ふせぎ、4/20・21 例祭、7/14・15 夏季大祭						
起源	1688～1704年の創建						
面積	社寺全体		m ² 、森域		m ²		
	植生		櫲等				
	防災機能	実績	不明				
今後		水防災の拠点として利用される可能性はないと思われる。					
その他特記事項							
位置図				平面図			
							
写真				断面図			
				縦断 平坦 <hr/> 横断 平坦 <hr/>			

<h2 style="margin: 0;">鎮守の森 調査票</h2> 調査日 2008/10/2、11/6 調査者 武井			
社寺名称	天神氷川八幡合社	通称	天神様
所在地	上尾市藤波1 - 282 - 1	管理者	
祭神、本尊	素盞鳴命、大己貴命、奇稻田姫命、応神天皇、神功皇后、天満天神、比売神		
祭礼、縁日	2/25 新年祭、9/25 例祭、11/23 新嘗祭		
起 源	不詳。1492～1501 叔悦禅師が再興。		
鎮 守 の 森	立 地	南と西は土地が低くなっているが水害の起こるような場所ではない。	
	面 積	社寺全体	m ² 、 森域 m ²
	植 生	櫟、杉、檜、桜等	
	防 災 機 能	実績	
今後			
その他特記事項			
位置図		平面図	
			
写 真		断面図	
		<p>縦断</p> <p style="text-align: center;">南側崖</p>  <p>横断</p> <p style="text-align: center;">東は擁壁で道路に接続、西傾斜</p> 	

鎮守の森 調査票		調査日 2008 / 10 / 4、11 / 6		調査者 武井	
社寺名称	氷川神社	通称			
所在地	伊奈町本町2 - 155	管理者			
祭神、本尊	素盞鳴尊、稲田姫命				
祭礼、縁日	元旦祭、節分2/3、例祭4/15、浅間様7/1、お日待ち10/15、新嘗祭11/23、冬至祭12/22				
起 源	1248年(宝治2年)創建				
鎮 守 の 森	立 地				
	面 積	社寺全体	m ² 、	森域	m ²
	植 生	杉、ヒノキ、桜、樅、ケヤキ、フジ棚、その他			
	防 災 機 能	実績			
今後					
その他特記事項	小室郷八力村の総鎮守				
位置図		平面図			
写 真		断面図			
		縦断 横断 			

上尾市・伊奈町の水防災拠点としての鎮守の森の調査について

上尾市、伊奈町を担当することになり、平成20年8月11日埼玉県学事課のホームページから宗教法人一覧表を収集し、8月13日埼玉県立文書館で地形図、迅速測図を、上尾市役所で上尾市地形図、伊奈町役場で伊奈町全図を収集し、神社の位置を図面で確認し、地形的に水防災拠点となるような場所に神社があるか図面上の調査を行った。

図面上からでは判然としないので、実地調査を行うことにし、9月12日7か所、10月2日11か所、10月4日10か所、合計28か所を調査した。9月12日は地図上で鳥居マークのある場所も調査したが、このような場所は鎮守の森と言えるような形態を備えていないことが判明したので、10月2日、4日は地図上に神社名が記載してある場所を調査した。

調査した場所は大宮台地上の場所であるため水防災拠点となりうるような場所はなかった。

念のため、調査した神社のうち数社について、11月6日埼玉県立久喜図書館に行き埼玉県神社庁の作成した「埼玉の神社」を調査したが各神社とも水防災にかかわったとの記載はなかった。

鎮守の森調査票に基づき三社（八枝神社、天神氷川八幡合社、氷川神社）についてまとめてみた（前出のとおり）。

（第3班 武井靖吉）

鎮守の森 調査票		調査日 2008/10/7	調査者 秋池	
社寺名称	氷川神社	通称		
所在地	鴻巣市額田1342	管理者	宮島 昭	
祭神、本尊	須佐之男尊、稲田姫命の2柱を祭神			
祭礼、縁日	元旦祭、風祭り(春祈禱・4月) 夏の大祭(祇園祭・7月) 秋の中祭(11月)			
起 源	文禄(1592~96)までは小社であったが寛永年間(1624~44)村の鎮守として造営			
鎮守の森	立地	荒川左岸の低地に位置し朝日山と呼ばれる台地上に祀られている。		
	面積	社寺全体 9,000m ² 、 森域 5,000m ²		
	植生	欒、檜、杉、竹		
	防災機能	実績	明治43年、昭和22年の大雨、台風による洪水時、避難場所、応急復旧作業の拠点となった。	
		今後	鴻巣市の「ふるさとの森」の指定を受けている。	
その他特記事項	近くには、洪水時応急設備の拠点となった放光寺がある。			
位置図				
平面図				
写 真				
断面図				

[氷川神社]

鴻巣市糠田1342

歴史

鎮座地の糠田は、荒川左岸の低地に位置し、かつて「糠田の渡し」と呼ばれる渡しがあり、糠田河岸という河岸場であった。

当社は、朝日山と呼ばれる台地に祀られ、須佐之男命（すさのお）と稲田姫命（いなだひめ）の二柱を祭神している。そのため、本殿は二間社の流造りとなっており、内陣には、「氷川大明神御宝前 享保三年戌二月吉日」の銘のある金幣が納められている。

当社の由緒については、「風土記稿」糠田村の項に「氷川社 村民の持、文禄の頃（1592 - 96）まで小社なりしが寛永年中（1624 - 44）村の鎮守として造営すると云う」と記されている。この記述と、境内が地元の旧家の河野権兵衛が代々住居を構えた「権兵衛屋敷」に近い所にあることから、当社の創建には河野家が深くかかわっていたと推測できる。

信仰

年間の祭りは、元旦祭・風祭り（4月）・夏の大祭（7月）・秋の中祭（11月）の4回ある。そのうち、風祭りは「春祈祷」、夏の大祭は、「祇園祭」の通称がある。

（埼玉神社庁発行 「埼玉の神社」より引用）

[明治43年（1910）の水害] （8月1日～16日）

概況

明治43年は、晩霜や降雹などの異常気象が相次ぎ田植時には異常乾燥とも云うべき日照りが続き、このため水喧嘩が各地で起こったと云われる。関東地方では、7月下旬から雨が降り続き、8月に入ると1日から前線や低気圧が停滞して連日大雨となり、また台風の接近により暴風雨となった。この降雨は8月16日まで続いた。

荒川筋北足立郡田間宮村大字糠田の状況 （現鴻巣市糠田）

8月8日早朝から引続き暴風雨のため荒川の水位は上昇し続けていた。

10日夕方には水位が堤防法面半ば以上に達した。馬踏12尺の内中央より崩壊法先田面へ押出地下より漏水が始まり土俵羽口工、竹砲工及び五徳工等施工した。

本箇所への応急工事は、崩壊長78間（約140M）におよび、土俵羽口工として空俵7200俵、蕤273枚、唐竹5550本等の資材は3日間で全て取揃えた。また、作業員は、1日平均656名が昼夜兼行就業を続行し、7日間で竣功させた。

（埼玉県水害誌より）

[昭和22年（1947）カスリン台風]

北足立郡田間宮村の状況 （現 鴻巣市糠田）

(1) 出水の状況

荒川の氾濫に備え、9月15日午前8時30分消防団全員、更に各戸1名宛の奉仕員で防水班を

編成、準備態勢を整えた。

その後、荒川の水位は刻々と上昇し越水の危険が迫ったので、全村民男子総動員を指令した。また、隣町村消防団員、鴻巣町警察署員併せて103名が応援に駆けつけた。

午後5時10分溢水する堤防口から徐々に決潰が始まった。出勤人員1663名必死の水防も空しく、午後5時40分頃樋管堤防（渡内）が一大音響と共に破堤した。さらに、午後6時30分頃他の樋管堤防（行人）も破堤した。奔流は、大海の怒濤の如く耕地に浸入、民家も次々と水没していった。

（2）被害者の避難所設置

田間宮小学校、氷川神社社務所、放光寺の三箇所を指定して応急設備を施し、9月15日から同月21日まで1週間、延べ人員1023人を収容した。

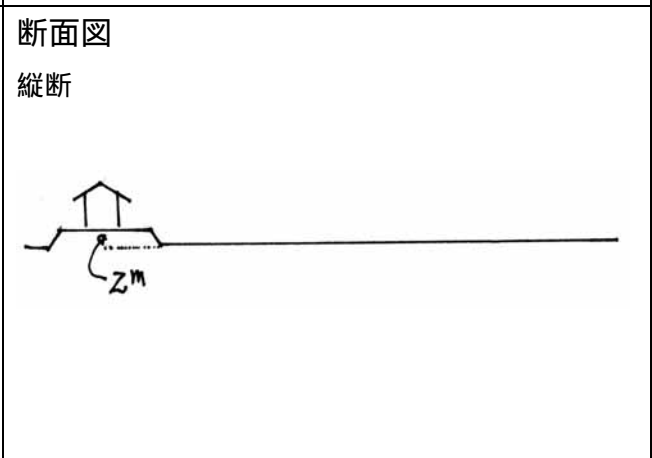
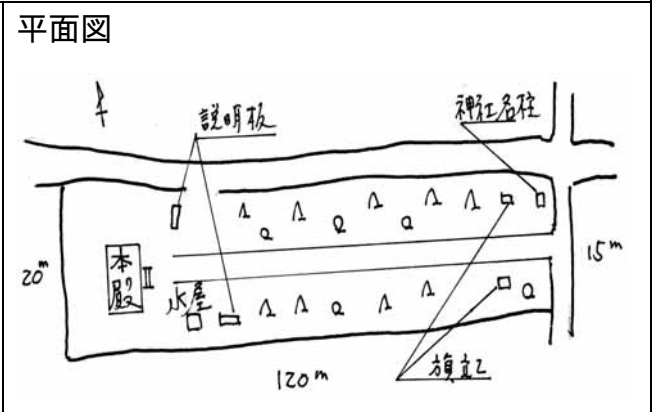
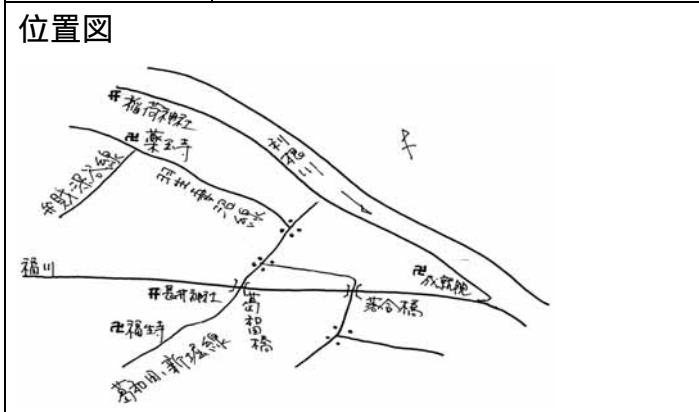
当村内非浸水地帯秋元酒造工場外五箇所に、消防団員、婦人会主体に、炊出しを開始し、一日平均1397名に対し、16日から4日間給食に努力した。

（この間の食糧は、米25俵、コッペパン15000個であった）

（埼玉県水害誌より）

鎮守の森 調査票 調査日 H21/2/7 調査者 横倉 輝夫

社寺名称	長井神社	通称	日向の八幡様
所在地	熊谷市日向1090	管理者	大字日向160戸
祭神、本尊	八幡宮・弁財天		
祭礼、縁日	春祭り(4月28日)・八坂祭り(8月18日)・		
起 源	天喜5年(1057)源由頼義が島田道竿に大蛇を退治させ2社を祭る。		
鎮守の森	立 地	本殿へ向かう参道の両側・・・小規模	
	面 積	社寺全体 1,800m ² 、	森域 300m ²
	植 生	杉・ケヤキ	
	防 災 機 能	実績 明治43年洪水で住民が避難した。 今後	
その他特記事項	長神社境内に於いて船を覆され、竹木にすがりつき・・・ (妻沼町史p421)		



[長井神社]

歴史

当社は明治9年まで八幡社と称していた。社蔵の「八幡宮御鎮座伝記」には天喜5年(1057)源頼義が阿部貞任を打つため四州へ下る時、当地に滞留した。この時竜海という四町四方の池に大蛇が棲んで村民を悩ますと聞き、土地の島田大五郎道竿に弓矢と太刀を与えて大蛇退治を命じた。

道竿は、まず池を干す事を計り、利根川まで堀を掘り水を落とすと四丈もの大蛇が姿を現した。・・・道竿は馬上神に念じて矢を放てば、見事右の眼を射ぬき、大蛇を退治した。頼義は門出の吉事であると、大蛇を倒したところに「八幡社」を、大蛇を倒したところに「弁財天」を祀った。この時掘った堀を「道竿堀」という。〔古代、この地方は利根川の乱流地帯であり、多くの沼が残されていたが、平安末期になると農地を拡大するため干拓が進み、この伝記も沼から排水路を整備し干拓を行った土着の島田大五郎道竿を顕彰する言い伝えと推定される。なをこの道竿堀は現在も排水路として存在する。〕

その後、忍城主・江戸旗本方の庇護を受けたが明治2年神仏分離し、明治9年村社となり、長井荘にちなみ長井神社と改称した。

信仰

日向の八幡様と呼ばれ、淋病・消渴など下の病に靈験があるとして、戦前までは県内を初め栃木・群馬方面まで広く信仰されていた。

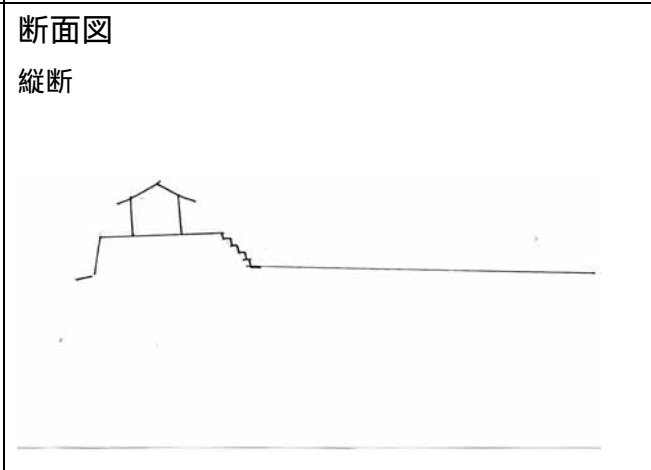
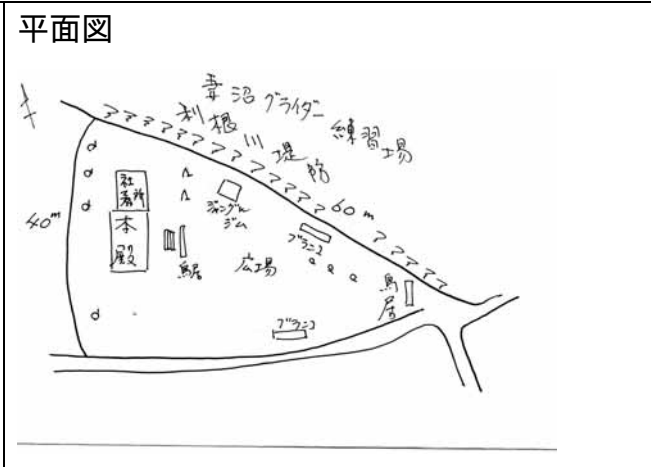
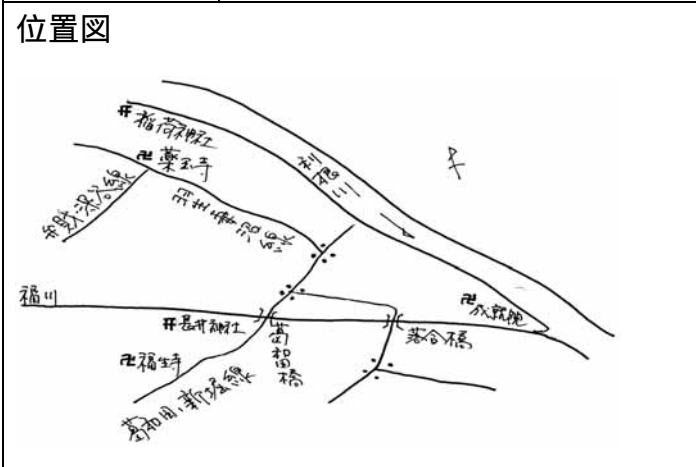
(埼玉県神社庁神社調査団編者 平成4年「埼玉の神社」埼玉県神社庁発行より引用)

鎮守の森 調査票 調査日 H21/2/7 調査者 横倉 輝夫

社寺名称	伊奈利神社	通称	
所在地	熊谷市大野751(字南境目)	管理者	大野氏子100戸
祭神、本尊	豊宇気比女命		
祭礼、縁日	初午祭(3月初午)・お日待(3月27日)・お九日(10月29日)		
起 源	江戸中期(1756年伏見稻荷から分霊証書を受ける)		

鎮 守 の 森	立 地		
	面 積	社寺全体	1,500m ² 、 森域
	植 生	ケヤキ・マキ・銀杏が数本のみ	
	防 災 機 能	実績	明治43年洪水で大字の老人・子女が境内に避難
今後			

その他特記事項 大字大野鈴木・・・は家族10名を稲荷社に非難せしめ、自己は堤防の浸水を防ぐため・・・(妻沼町史p420)



[伊奈利神社]

歴史

伊奈利神社は大字大野の北端で、境内のすぐ北側は利根川の堤防があり南方に広がる氏子の家々や耕地を水害から守護するような形で鎮座する。

宝暦 6 年（1756）に伏見稻荷から分霊証書（武州大野村鎮守）を受けていることから、江戸時代半ばにこの地に祀られたと考えられる。

江戸時代には当社に隣接した文殊院（現在は存置してない）が別当であったが、明治に入ると神仏分離でその管理を離れ、明治 9 年に村社となった。

信仰

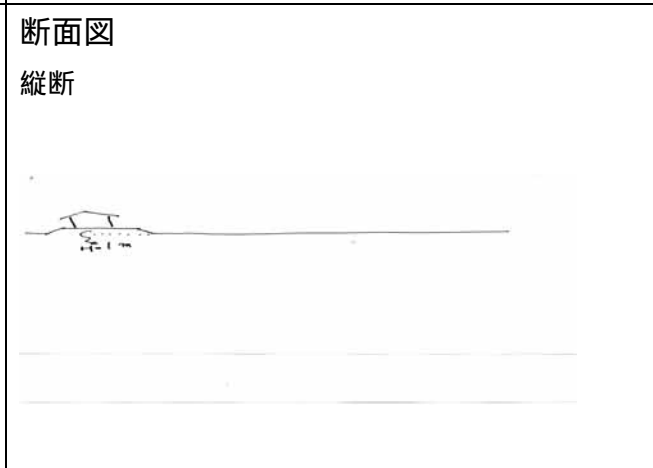
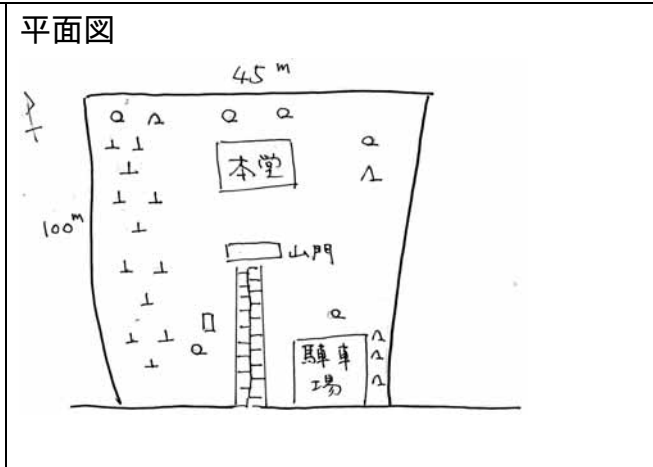
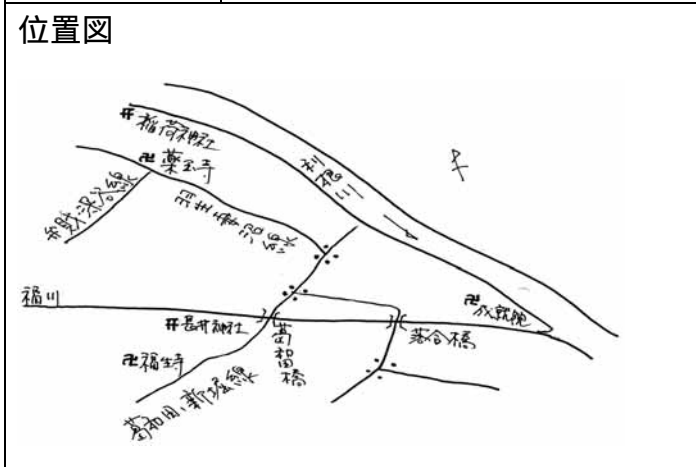
祭神の豊宇気比女命が穀物の神である事から当社は五穀豊穰・養蚕倍盛のご利益があるといわれ、初午の祭礼にはかつては近郷から「穀蚕成就」の神札を受けに多くの参詣者が集まり、余興に芝居も掛かり境内は身動きが取れないほど賑わったが、養蚕の不振とともに参詣者も減ってしまった。

（埼玉県神社庁神社調査団編者 平成 4 年「埼玉の神社」埼玉県神社庁発行より引用）

鎮守の森 調査票 調査日 H20/12/15 調査者 横倉 輝夫

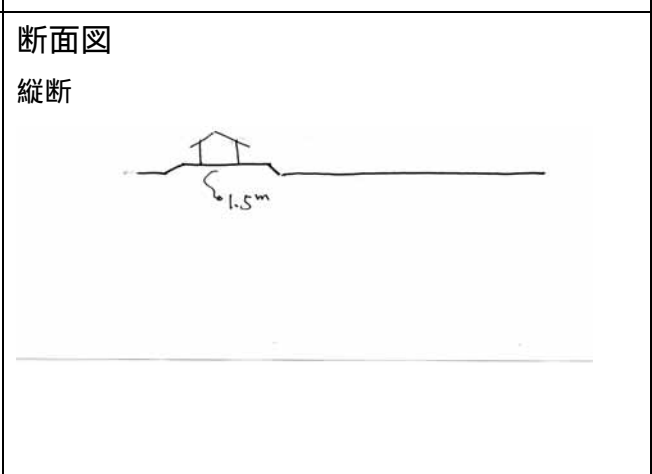
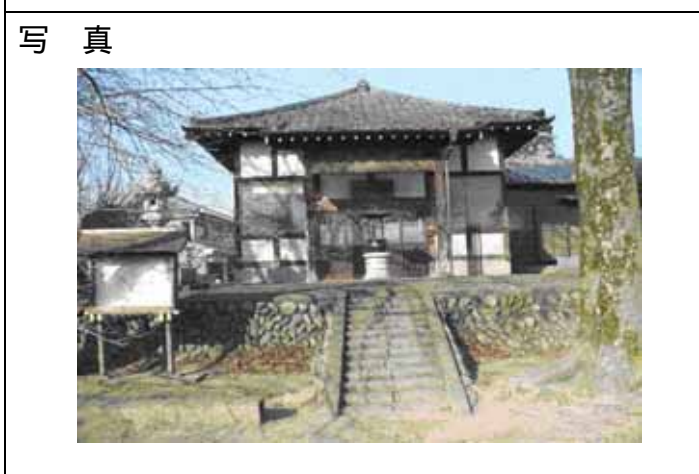
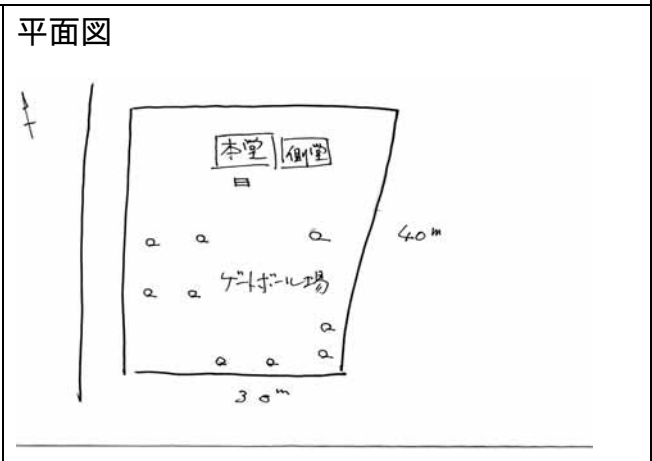
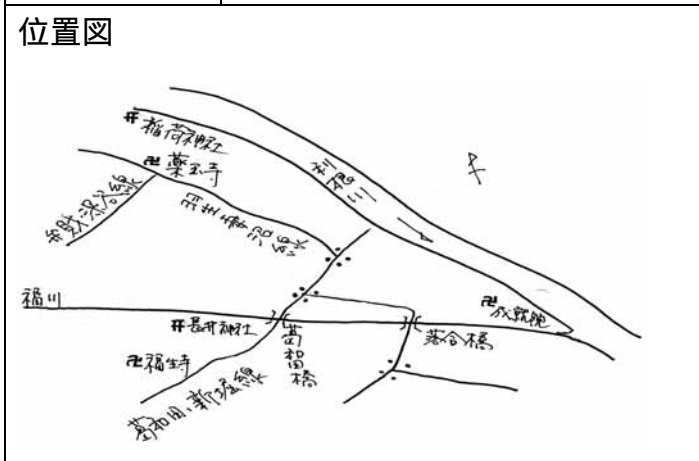
社寺名称	福生寺	通称	
所在地	熊谷市大字日向 1154	管理者	西村 良範
祭神、本尊			
祭礼、縁日			
起 源			
鎮守の森	立 地		
	面 積	社寺全体 4,500m ² 、 森域	m ²
	植 生	杉・ケヤキが10本ほどある。	
	防 災 機 能	実績	明治43年洪水で救護所となる。
		今後	

その他特記事項 日向新田住民58名は・・・救護船に助けられ福生寺に収容して救護の手を加えられた。(妻沼町史 p 419)

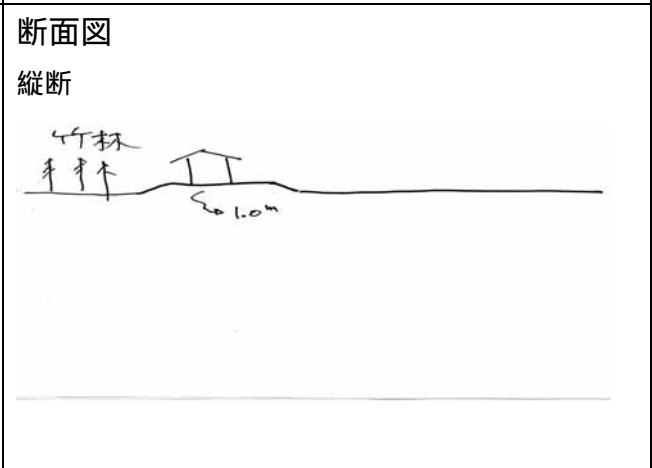
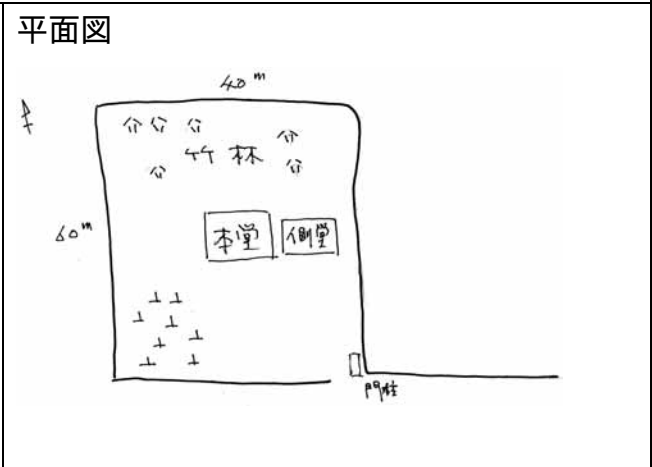
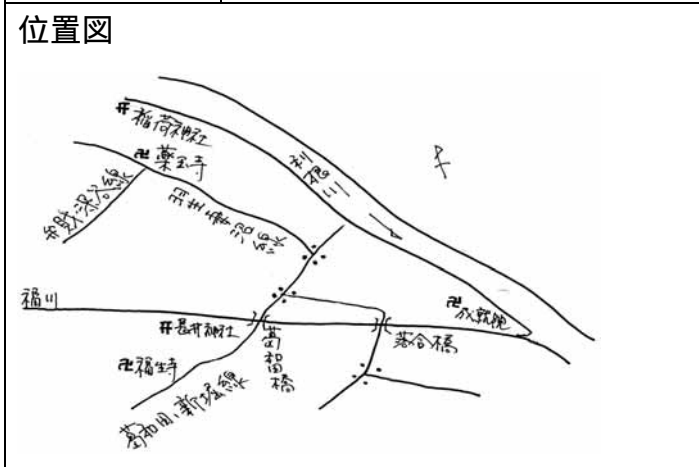


鎮守の森 調査票 調査日 H20/12/15 調査者 横倉 輝夫

社寺名称	成就院	通称	
所在地	熊谷市大字俵瀬	管理者	(無住)
祭神、本尊	大日如来 (伝佐渡国分寺より請来したもの)		
祭礼、縁日			
起 源			
鎮守の森	立地		
	面積	社寺全体 1,200m ² 、 森域	m ²
	植生		
	防 災 機 能	実績	明治43年洪水で炊き出所として利用。
今後			
その他特記事項	妻沼町史の自然災害旧秦村の部分で炊き出箇所として記載 (p 4 2 2)		



鎮守の森 調査票		調査日 H20/12/15	調査者 横倉 輝夫
社寺名称	薬王寺	通称	
所在地	熊谷市大字弁財	管理者	(無住)
祭神、本尊	大日如来		
祭礼、縁日			
起 源			
鎮守の森	立地		
	面積	社寺全体 2,400m ² 、森域 400m ²	
	植生	竹	
	防 災 機 能	実績	明治43年洪水で炊き出所として利用。
		今後	
その他特記事項	妻沼町史の自然災害旧秦村の部分で炊き出箇所として記載 (p 4 2 2)		



鎮守の森 調査票		調査日 H20/8/20	調査者 秋山輝雄、尾崎邦夫
社寺名称	諏訪神社	通称	鎮守さま
所在地	本庄市堀田1059番地		管理者 堀田地区
祭神、本尊	天照大神、埴安姫命、大己貴命		
祭礼、縁日	歳旦祭(1月2日)、初午祭(2月初午)、天神祭(2月25日)、祈年祭(4月3日) 八坂祭(6月25日)、夏越の大祓祭(7月31日)、例大祭(10月17日)、 新嘗祭(12月10日)、師走の大祓祭(12月30日)		
起 源	永禄10年(1567)に逸見家が信濃国・諏訪大社の分霊を勧請したもの		
鎮守の森	立 地	小山川左岸の低平地	
	面 積	社寺全体 約2,600 m ² 、 森域 約400 m ²	
	植 生	檜、櫟、銀杏、杉等	
	防 災 機 能	<p>実績 カスリーン台風による小山川増水の際、木流し用に杉の木を提供したが、それ以外の防災実績は不明。</p> <p>今後 高台でないため、出水時の避難場所としては不適と思うが、往年、樹林地であったと思われる地域は現在整地されて滑り台やブランコ等のある遊技場となっており、広いことから水防準備基地としての活用が考えられる。</p>	
その他特記事項	当地域はほぼ直角に右折した小山川の左岸側に位置していることから、過去に何度となく水害を被っている。		

位置図



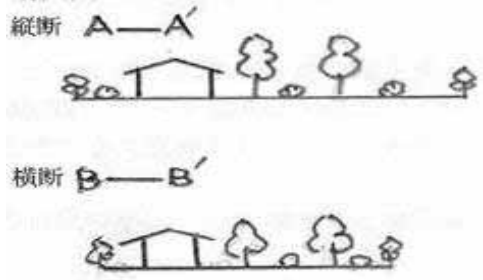
平面図



写真



断面図







4 - 4 . 行田・杉戸




第4班の調査範囲は、行田・杉戸県土整備事務所管内で、調査の実施体制は表4-4に示すとおりである。

表1-1 調査の範囲と実施体制

調査班	調査範囲	区域内主要市町村	調査者
第4班	行田・杉戸県土整備事務所管内	行田市、羽生市、加須市、北川辺町、大利根町、騎西町ほか	白倉 崇、小林眞五郎 尾花幸男、岡部 勝、 富田正美、多田正雄、 濱田久典

：調査班長

鎮守の森 調査票				調査日 平成21年2月20日		調査員 尾花幸男	
社寺名称	稲荷神社			通称			
所在地	大和町旗井稲荷木			管理者			
祭神、本尊	春の大祭（3月1日） 秋の大祭（10月14日頃）						
祭礼、縁日							
起源	不明						
鎮守の森	立地	社殿					
	面積	25m × 8m = 200㎡					
	植生	樺					
	防災機能	実績	昭和22年のカスリーン台風時は、洪水により約2m水位が上がり、本堂の中と外に大勢の人が1ヶ月程度避難した。				
		今後	聞き取りをした人では分からなかった				
その他特記事項	昭和22年のカスリーン台風の時には、上から一段目のところまで水が来た（約2.2m）						
位置図				平面図			
写真				断面図			

鎮守の森 調査票				調査日	平成21年2月20日	調査員	尾花幸男
社寺名称	若宮八幡宮			通称			
所在地	大和町北下新井421			管理者			
祭神、本尊	元旦祭、春の大祭、秋の大祭						
祭礼、縁日	元旦祭、春の大祭、秋の大祭						
起源	創立は社伝によると元和年間とされるが現在の神殿は大正15年に再建						
鎮守の森	立地	本殿					
	面積	神社の敷地は広いが、神殿の建設されている敷地は約210㎡					
	植生	樺、イチヨウ、むくい、榎木、茅の木、椿、かし、杉、檜					
	防災機能	実績	昭和22年のカスリーン台風の時には、約80人が40日程度避難生活を送った。				
今後		以前に町役場と話し合われたが、宗教上の問題があり、防災拠点とすることは難しいらしい。					
その他特記事項	社殿は約2.7mの高さに盛土された上に建設されているが、昭和22年のカスリーン台風では2.4mのところまで水が来た						
位置図				平面図			
写真				断面図	横断面図  高さは神社の敷地から 2.7m		

[この地域の鎮守の森調査について]

この調査地域は、行田市、加須市、羽生市、大利根町、騎西町、北川辺町の 3 市 3 町であるが、神社庁に登録されている神社は、行田市 55、加須市 54、羽生市 49、大利根町 26、騎西町 21、北川辺町 13 ヶ所の合計 218 ヶ所である。

今回の調査は高く盛り土してつくられている神社が過去の災害でどのように活用されたかという調査である。神社の数が多いため、これらの視点から全部の神社を調査することはできなかったが、神様は高いところに祀るという神社が多いと思われる。

しかし、水害の常襲地帯である羽生市や北川辺町、大利根町では水塚（みつか）が多く、とくに北川辺町の神社は盛り土した上に社殿があるが、水塚はそれより高く造られている。

昭和 22 年のカスリーン台風の時、北川辺までは、神社は洪水の水位より下になり、水塚や堤防に避難した家が多かったようである。また、羽生市では庭先まで水が来た程度の家屋が多く、被害にあった地域でも床下浸水程度であり、神社に避難したところは確認できない。しかし、牛馬等の動物は神社に避難させた。

行田市、加須市、騎西町は不明であるが、加須市は羽生市より決壊場所に近いため被害は多かったと思われる。行田市および騎西町の被害は、羽生市と同程度かあるいは少なかったと思われる。

大利根町では 2～3m の洪水となり、水塚や神社、また堤防に避難したが、今回の調査では、2 ヶ所の神社において大勢の人が避難したとの話が聞けたので、それを調査票にまとめた。

（第 4 班 尾花 幸男）